

Corporate Profile

健康にアイデアを
meiji



感染症に挑む。

目に見えない細菌やウイルスの感染拡大によって、世界中の人々や社会の”生き生きとした活動”が失われてしまう。これまでもこれからも、私たちはそんな脅威にさらされ続けていくことでしょう。Meiji Seika ファルマは、こうした脅威から人々を守るために、感染症に挑み続けています。70年以上にわたる抗菌薬の提供とともに、ワクチンによる感染症予防、抗菌薬の安定供給の取り組み、薬剤耐性菌に有効な抗菌薬の開発など、挑戦を続けていきます。

Group Slogan

健康にアイデアを
meiji

meijiグループは、健康というフィールドでみんなが「いいね」と思えるアイデアをカタチにしていきます。一人のこころとからだの健やかさが笑顔を生み、地球の健やかさと未来を広げる。いま、健康に必要なのはアイデアです。

TOP MESSAGE

感染症のリスクから人々を守るために、自らの事業を通して社会課題の解決に寄与します。

私たちは、感染症領域のリーディングカンパニーとして、ワクチンによる予防から、抗菌薬による治療にわたるラインアップを充実させます。新薬開発による薬物治療の進歩だけでなく、高品質なジェネリック医薬品を国内外に提供し、幅広い疾患領域における薬剤費の適正化や医薬品へのアクセス向上に貢献します。さらに、事業を展開するなかで「ワクチン事業の強化」や「CMO(受託製造)/CDMO(受託開発製造)の強化」に取り組みます。「健康にアイデアを」のグループスローガンのもと、「健康」というフィールドで大きな役割を果たしていくことを目指します。生命関連産業に携わるものとして、日々謙虚に努力を重ねていくことが私たち一人ひとりの志です。

Meiji Seika ファルマ株式会社 代表取締役社長

小林 大吉郎



なぜ感染症に挑むのか？



PURPOSE

社会的意義

70年以上にわたって 抗菌薬を提供してきたから。

明治グループは1946年にペニシリンの製造を始めました。当時、ペニシリンの代表的な原料の一つだった乳糖は、食品・乳製品を扱ってきた明治グループにとってなじみ深い物質だったのです。ペニシリンの発売以降、ラインアップを拡大し、現在では、抗菌薬の各系統の製品を揃えた全身性抗菌薬のトップサプライヤーとしてのポジションを確立しています。



抗菌薬で 日本の医療を守りたいから。

感染症の治療や手術時の感染予防に欠かすことができないβラクタム系抗菌薬4剤が、特定重要物資に政令指定されています。これらを含む多くの抗菌薬の原薬は海外からの輸入に依存しています。Meiji Seika ファルマは、そのうち2剤のトップサプライヤーとして、国内で安定供給できるよう国内生産に向けた取り組みを進めています。



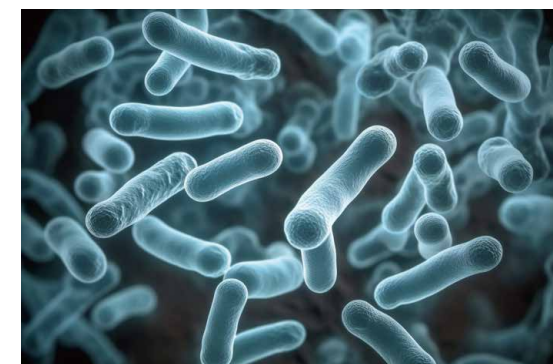
国内でペニシリン原薬の製造に着手

近年、抗菌薬が原料の調達不安から欠品に至るというケースが発生しており、医療関係者の間で危機感が高まっています。Meiji Seika ファルマは、この供給不安を解消すべく、厚生労働省の「医薬品安定供給支援事業」に応募。採択を受け、岐阜工場で約30年ぶりにペニシリン原薬の製造に着手しています。



「抗菌薬が効かない細菌」を なくしたいから。

近年、問題となっているのが抗菌薬が効かない薬剤耐性菌(AMR)です。世界中で増えてきており、このまま対策を取らなければ、2050年には死者が1,000万人に達するという報告があります。Meiji Seika ファルマは、このような細菌に有効な抗菌薬の開発を進めています。





どのように感染症に挑むのか？

BUSINESS

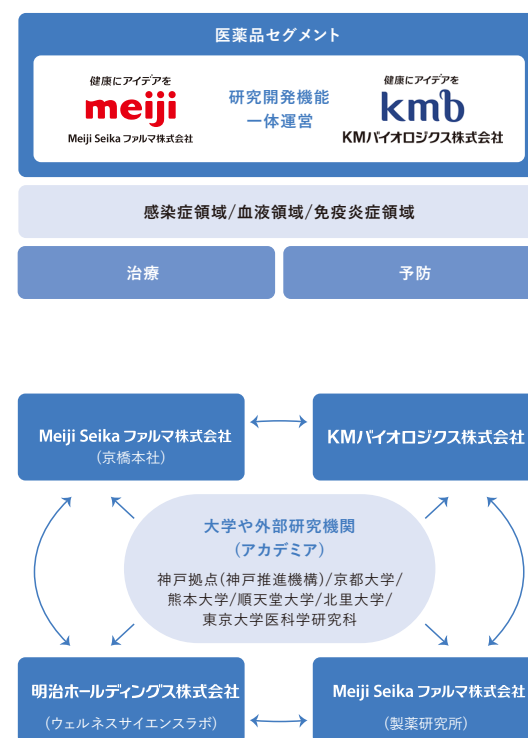
事業体制

予防と治療の両面から 感染症に挑む。

2018年にKMバイオロジクスが明治グループに加わり、各種ワクチンの提供を開始しました。ワクチンの安定供給や新たなワクチンの開発に力を注ぎ、感染症の予防と治療の両面から人々の健康に貢献することを目指しています。

オープンイノベーションによる 研究開発の最適化。

近年、画期的な新薬の種はアカデミアから生み出されるケースが増えています。当社は社内研究体制を最適化し、アカデミアとのオープンイノベーション型共同研究の推進、スタートアップとの連携に取り組んでいます。社内外の人財を融合させることで、成果が現れつつあります。



事業領域

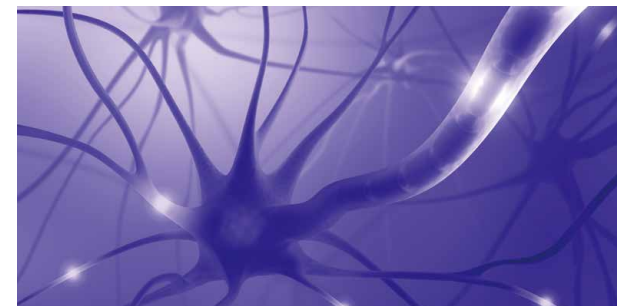
抗菌薬(感染症領域)

各系統の製品を揃え、全身性抗菌薬でのリーディングカンパニーのポジションを確立しています。開発から生産に至るまでバリューチェーンを国内で完結できる体制を築き、国内で50%以上のシェアを持つペニシリン系注射抗菌薬の安定供給を実現します。



中枢神経系領域

日本初のノルアドレナリン作動性・特異的セロトニン作動性抗うつ薬「リフレックス」や統合失調症治療薬「シクレスト」などの豊富な治療薬をラインアップし、適切な情報提供に努めています。



ジェネリック医薬品

当社は、新薬メーカーとして他社に先駆けてジェネリック医薬品事業に取り組んできました。さらに、2015年にグループに加入したインドのメドライクでジェネリック医薬品を製造。厳しい品質マネジメントにより、日本水準の高い品質を低コストで実現しています。



ワクチン(感染症領域)

KMバイオロジクスのインフルエンザワクチンや五種混合ワクチン、日本脳炎に対するワクチンなどを販売しています。国内で長年の使用実績がある不活化ワクチンの開発技術だけでなく、mRNA技術などの新たなワクチン技術の獲得にも取り組んでいます。



免疫炎症領域

感染症領域に親和性の高い血液がん領域にも注力しています。血液内科領域では、未だ治療選択肢が限られる疾患が存在します。今後もアンメットメディカルニーズの開発品目を充実させ、血液がんで苦しむ患者さんのQOLと予後向上に貢献できるよう努めていきます。



CMO(医薬品受託製造)/CDMO(医薬品受託開発製造)

CMO、CDMOの豊富な実績と大規模生産設備を有するメドライクでは、グローバル製薬企業など既存顧客との取引拡大や新規取引の獲得に取り組んでいます。国内においては、Meiji Seika ファルマテックも経口固形製剤の医薬品製造受託を行っています。



GLOBAL

海外展開

成長が期待されるアジア市場をはじめ
世界各国への事業展開を加速。



当社は1950年から抗菌薬の輸出を開始しました。インドネシア、タイ、中国、スペイン、インドなどの現地子会社を拠点にグローバルな生産体制、販売網を整備。大規模生産設備を有するインドのメドライクをグループに加え、世界的に拡大する医薬品受託製造の需要に応えます。

生産体制

原薬・原材料調達から製造・包装・出荷に至るまで、GMP※に基づいた厳格な品質管理体制の下で生産。サプライチェーン全体を一元管理し、安定的に供給できる体制を整えています。高度な製造設備と厳格な製造管理、従業員一人ひとりの品質に対する高い意識をもって、確かな品質の製品を医療現場にお届けしています。

※医薬品の製造管理および品質管理の基準



信頼性保証

患者さん、医療関係者の皆さまから信頼を頂いて社会に貢献していくことを信頼性保証の基本方針とし、そのために品質マネジメントシステムを構築・運用して、信頼性の確保・向上に取り組んでいます。原材料調達を含めた製造・品質管理や副作用等の情報収集と適正使用情報の提供に関わる信頼性保証活動を進め、安心して使用できる製品をお届けしています。



SUSTAINABILITY

サステナビリティ

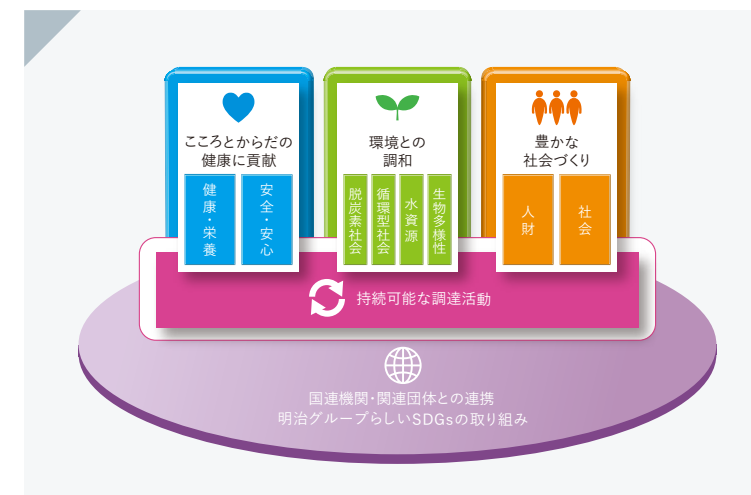
世界の人々が笑顔で健康な毎日を過ごせる
未来社会をデザインする。

明治グループサステナビリティ
2026ビジョン

明治グループは「こころとからだの健康に貢献」「環境との調和」「豊かな社会づくり」の3つのテーマと、共通のテーマである「持続可能な調達活動」を掲げ、マテリアリティ（重要課題）とKPI（重要業績評価指標）を設定して取り組みを進めています。



詳しくはこちら



新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

長年のワクチン開発を通じて培ってきた知見を活かし、2020年5月から新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する不活化ワクチン（KD-414）を開発しています。また、次世代のmRNAワクチン（レプリコンワクチン）である「コスタイベ筋注用」の提供に向けた取り組みも進めています。国産ワクチンを一日でも早く国内に供給できるよう開発を加速し、人々が安心して暮らせる社会の実現に努めています。



抗菌薬の安定供給

現在、海外からの供給に依存しているペニシリン系抗菌薬の共通原料である6-APAの安定的な供給を実現するため、岐阜工場で生産する準備を進め、2025年の生産開始を目指しています。感染症治療の中心的な役割を担う社会的責任を全うすべく、安定供給体制の強化に努めています。



HISTORY

沿革

○ 1916-

創業期

● 1916

明治製菓の前身、『東京菓子株式会社』設立

● 1924

東京菓子、商号を『明治製菓株式会社』と変更

○ 1946-

医薬品への本格参入

● 1946

ペニシリンの製造開始、薬品事業を始める

国内各地で医薬品の不足が叫ばれるなか、乳糖を原料に、「フルーツシラップ」の瓶を用いてペニシリンの培養を開始。医薬品事業に本格参入しました。



○ 1974-

海外事業展開の開始

● 1974

海外グループ会社『PT.メイジ・インドネシア・ファーマシューティカル・インダストリーズ』設立

● 1989

抗不安薬「メイラックス」発売

フランスのサノフィ社からの技術導入を経て、抗不安薬「メイラックス」を開発。これが当社の中枢神経系領域進出の先駆けとなりました。

● 1994

抗生物質「メイアクト」発売

新たな感染症の流行により新規抗生物質への期待が高まるなか、自社開発の抗生物質である「メイアクト」を発売しました。小児科領域を中心に、現在も幅広く使用されている製剤です。



○ 1998-

対応領域の多様化

● 1998

ジェネリック医薬品事業に本格参入

患者の負担軽減などの観点から注目を浴びつつあったジェネリック医薬品領域に、開発型の製薬企業として業界他社に先駆けて参入しました。

● 1999

抗うつ薬「デプロメール」発売

● 2004

光線力学的療法用剤「レザフィリン」発売

○ 2011-

さらなる健康価値を追求

● 2011

明治グループ内事業会社の再編により、旧『明治製菓株式会社』の薬品事業を承継する『Meiji Seika ファルマ株式会社』が発足

● 2015

インド『メドライク Limited』がグループに参入

超高齢社会の到来を控え、日本国内でジェネリック医薬品のニーズが急速に拡大するなか、メドライクLimitedを子会社化。インド国内に複数の生産拠点を有し、各国に販売網を広げる同社を傘下に置くことで、国内向けの安定供給体制を整えるとともに、海外展開にもつなげています。

● 2016

ジェネリック医薬品製造販売子会社『Me ファルマ株式会社』設立

● 2018

生物学的製剤（ワクチン等）の研究・開発・製造・販売会社『KMバイオロジクス株式会社』がグループに加入

一般財団法人化学及血清療法研究所の主要事業を承継し、明治グループの一員となったKMバイオロジクス。現在はワクチンの研究開発や販売において、Meiji Seika ファルマと密な連携を図っています。

● 2022

小田原工場の機能を承継した『Meiji Seika ファルマテック株式会社』設立

● 2024

5種混合ワクチン「クイントバック」発売
慢性GVHD治療薬「レズロック®錠」発売



のりしろ

OUTLINE

会社概要

■ Meiji Seika ファルマ株式会社 Meiji Seika Pharma Co., Ltd.

【設立】1916年10月9日

【代表取締役社長】小林 大吉郎

【社員数】5,575人（2024年3月31日現在）

【事業内容】医療用医薬品の製造販売等

【資本金】283億63百万円

【本社所在地】東京都中央区京橋二丁目4番16号

【事業所・グループ会社】

国内

本 社

支 店

医薬北海道支店／医薬東北支店／医薬東京支店／医薬関東支店／医薬中部支店／医薬関西支店／
医薬中四国支店／医薬九州支店

研究所

製薬研究所

工 場

岐阜工場

グループ会社

Meiji Seika ファルマテック株式会社／Me ファルマ株式会社／大蔵製薬株式会社／
Romeck Pharma合同会社／都輸送株式会社

海外

事務所

台湾駐在員事務所

グループ会社

広東明治医薬有限公司／PT. Meiji Indonesian Pharmaceutical Industries／
Thai Meiji Pharmaceutical Co., Ltd.／Medreich Limited／
Genovo Development Services Limited／Adcock Ingram Limited／
Adcock Ingram Pharma Private Limited／Medreich Life care Limited／Medreich plc／
Medreich Australia Pty Ltd.／Medreich Far East Limited／Inopharm Limited／
Medreich New Zealand Limited／Meiji Pharma Spain, S.A.／Meiji Seika Europe B.V.／
Meiji Pharma USA Inc.

予防と治療の最前線から

INSIGHT INSIDE

Meiji Seika ファルマを
深掘りするストーリー

予防と治療の最前線におけるさまざまな取り組みをご紹介します。

詳しくはこちら

